



## 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2024/06/26  
SDS整理番号 13457150

製品等のコード : 1345-7150

製品等の名称 : 4-メトキシフェノール

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
重合防止剤、香料、プラスチック添加剤、アクリルアミドゲル崩壊防止剤、  
繊維の膨潤剤、防腐剤、安定剤、感光材料の貯蔵安定化剤、  
酸化・老化防止剤 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性  
自然発火性固体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性  
急性毒性 (経口) : 区分4  
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A  
皮膚感作性 : 区分1

環境に対する有害性  
水生環境有害性 短期(急性) : 区分3

注意喚起語: 警告

危険有害性情報  
飲み込むと有害 (経口)  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
水生生物に有害

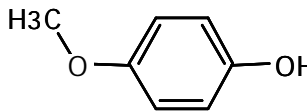
## 注意書き

## 【安全対策】

取扱い後は、よく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
環境への放出を避けること。

## 【応急措置】

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。  
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。



眼に入った場合: 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診察、手当を受けること。  
 眼の刺激が続く場合: 医師の診察、手当を受けること。  
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

## 【保管】

日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	4-メトキシフェノール (別名) p-メトキシフェノール、パラ-メトキシフェノール、 p-ヒドロキシアニソール、4-ヒドロキシアニソール、 ヒドロキノンモノメチルエーテル、メキノール、 ヒドロキノンモノメチルエーテル (英名) p-Methoxyphenol、4-Methoxyphenol、 p-Hydroxyanisole、4-Hydroxyanisole、 Hydroquinone monomethyl ether、 Mequinol (EC名称)、 Phenol、4-methoxy- (TSCA名称)
成分及び含有量	:	4-メトキシフェノール、 99.0%以上
分子式、示性式	:	CH <sub>3</sub> OC <sub>6</sub> H <sub>4</sub> OH、 C <sub>7</sub> H <sub>8</sub> O <sub>2</sub> 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	124.14
官報公示整理番号	:	(3)-567「メトキシフェノール」
化審法 安衛法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	150-76-5
TSCA インベントリ	:	登録済(150-76-5、ACTIVE)
EC インベントリ	:	登録済(205-769-8)
危険有害成分	:	4-メトキシフェノール

## 4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を流水と石鹸で洗う。 皮膚刺激又は発疹が生じた時は、医師の診察、手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
目に入った場合	:	直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをすること。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状:	:	吸入した時 : 情報なし 皮膚に付いた時 : 刺激、発赤、灼熱感 眼に入った時 : 発赤、痛み 経口摂取した時 : 情報なし

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	:	特になし
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境への流出をできるだけ防止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
- : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
  - : 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
  - : 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
  - : 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
  - : 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
  - : 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項
- : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
- 回収、中和
- : 裸火禁止。
  - : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
  - : 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
  - : 漏洩物が液状化した場合、土砂等に吸着させてできるだけ回収する。
  - : 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
  - : 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材
- : 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策
- : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
  - : すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
  - : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策
- : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
  - : 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
  - : 粉じんの堆積を防止する。
- 局所排気・全体換気  
安全取扱い注意事項
- : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
  - : 裸火禁止。
  - : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
  - : 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
  - : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
  - : 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避
- : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策
- : 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。
  - : 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
- 保管条件
- : 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。
  - : 容器を密閉して冷暗所に保管する。
  - : 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質  
容器包装材料
- : 強酸化剤、塩基、酸クロライド、酸無水物
  - : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度
- : 設定されていない。
- 許容濃度（ばく露限界値、  
日本産業衛生学会  
ACGIH  
生物学的ばく露指標）:
- : 設定されていない。
  - : TLV-TWA 5mg/m3
- 設備対策
- : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
  - : 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具
- : 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。
- 手の保護具
- : 保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
- 眼の保護具
- : 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具
- : 長袖作業衣を着用する。
  - : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策
- : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
  - : 取扱い後はよく手を洗う。
  - : 作業衣を家に持ち帰ってはならない。
  - : 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態
- 性状
- : 結晶 - 結晶性粉末
- 色
- : 白色

臭い	: 特異臭 (フェノール臭)
pH	: 弱酸性 (pH約5、3%水溶液)
融点	: 54~58
凝固点	: データなし
沸点	: 246
引火点	: 132 (開放式)
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: 1.1 Pa(25 )、 13 Pa(60 )
相対ガス密度 (空気 = 1)	: 4.3
密度又は相対密度	: 1.6 g/cm <sup>3</sup> (20 )
比重	: データなし
溶解度	: 水に溶ける (4g/100mL、25 )。 エタノール、ジエチルエーテル、アセトン、ベンゼン、酢酸エチルに溶ける。
オクタノール/水分分配係数	: log Pow = 1.58
発火点	: 421
分解温度	: データなし
粘度	: 4.58mPa・s (72.3 )
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
自然発火性固体	: 本品の発火点は421 (HSDB (2005))であり、常温で自然発火することはないと考えられるため、区分に該当しないとしました。

## 10. 安定性及び反応性

## 安定性 (反応性・化学的安定性)

	: 通常の取扱条件において安定である。 光のばく露により徐々に変質する。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤 (過塩素酸Na、過酸化水素、硝酸NH <sub>4</sub> 、硝酸Na等) と混触すると激しく反応し、発火することがある。 塩基、酸クロライド、酸無水物と反応する。 粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。
避けるべき条件	: 高熱、日光、光
混触危険物質	: 強酸化剤、塩基、酸クロライド、酸無水物
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素

## 11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 1600mg/kg (ACGIH 7th, 2001、PATTY 4th, 1994) 飲み込むと有害 (経口) (区分4) 経皮 分類できない。 吸入 (蒸気) 分類できない。 吸入 (粉じん) 分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: PATTY (4th, 1994) のモルモットの皮膚を軽度または中等度に刺激したとの記述、ならびに具体的な症例報告はないが、HSDB (2005)、HSFS (2000)、SITTIG (4th, 2002) の皮膚刺激性であるとの記述から、区分2とした。 皮膚刺激 (区分2)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 具体的な症例報告はないが、HSFS (2000) の接触により眼を重度に刺激する可能性があるとの記述、およびSITTIG (4th, 2002) の重度のeye burnsを引き起こす可能性があるとの記述から、区分2Aとした。 強い眼刺激 (区分2A)
呼吸器感受性	: 分類できない。
皮膚感受性	: モルモット (n=10) を用いた感受性試験 (OECD TG406) において本物質6.2%溶液 (ピーナッツ油) を皮内投与したところ、50%が反応したとの報告がある (NICNAS IMAP (Accessed Oct. 2018)、REACH登録情報 (Accessed Oct. 2018)、J. Am. Col. Toxicol., 4, 31-63. (1985))。 また、モルモット (n=8) を用いた感受性試験 (Freund's complete adjuvant test) において本物質3.9%水溶液を皮内投与したところ、50%が反応したとの報告がある (NICNAS IMAP (Accessed Oct. 2018)、REACH登録情報 (Accessed Oct. 2018)、J. Am. Col. Toxicol., 4, 31-63. (1985))。 以上のことから、区分1とした。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (区分1)
生殖細胞変異原性	: 分類できない。
発がん性	: 分類できない。 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性	: 分類できない。

- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない。  
 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない。  
 ACGIH (7th, 2001)およびPATTY (4th, 1994)のヒト職業暴露例に白斑(皮膚は標的臓器と考えられ、皮膚のメラニン細胞の異常による)が認められたとの記述があるが、この影響は全身毒性ではなく、暴露部位における局所作用と考えられることから、標的臓器に該当せず、他にデータが無いことから、分類できないとした。  
 誤えん有害性 : 分類できない。

## 12. 環境影響情報

- 生態毒性  
 水生環境有害性 短期(急性) : 魚類(ニジマス)96時間LC50=28.54mg/L (ECETOC TR91, 2003)  
 水生生物に有害(区分3)  
 水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。  
 急速分解性があり(BODによる分解度: 86%(既存化学物質安全性点検データ)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=1.58 (PHYSPROP Database, 2005))ことから、区分に該当しないとした。  
 残留性・分解性 : 良分解性。BOD分解度=86%  
 生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Kow = 1.58  
 土壤中の移動性 : データなし  
 オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。  
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。  
 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
 (参考)(1)燃焼法  
 可燃性の溶剤に溶かし噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。  
 (2)活性汚泥法  
 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。  
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

- 国内規制(適用法令)  
 陸上規制 : 特段の規制なし(非危険物)  
 海上規制 : 特段の規制なし(非危険物)  
 航空規制 : 特段の規制なし(非危険物)  
 国連番号 : 非該当  
 国連分類 : 非該当  
 品名 : 非該当  
 海洋汚染物質 : 非該当  
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当  
 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 重量物を上積みしない。  
 必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

## 15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物

(政令番号 第448号「パラ-メトキシフェノール」、対象重量%は 1)  
 名称等を通知すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第448号「パラ-メトキシフェノール」、対象重量%は 1)  
 (令別表第9)

ただし、令和7年4月1日以降、次のように変更  
 名称等を表示すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第1562号「パラ-メトキシフェノール」、対象重量%は 1)  
 名称等を通知すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第1562号「パラ-メトキシフェノール」、対象重量%は 0.1)  
 (規則別表第2)

皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の  
 使用義務物質「皮膚刺激性有害物質」  
 「パラ-メトキシフェノール、対象重量%は 1」  
 (安衛則第594条の2)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法): 非該当 [2023年 (R5年) 4月1日施行の法改正にも非該当]

消防法 : 非該当  
 毒劇法 : 非該当  
 船舶安全法 : 非該当  
 航空法 : 非該当  
 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)

HSコード: 2909.50

第29類 有機化学品

・輸出統計番号 (2024年1月版): 2909.50-000

「エーテル、エーテルアルコール、エーテルフェノール、エーテルアルコールフェノール、アルコールペルオキシド、エーテルペルオキシド及びケトンペルオキシド (化学的に単一であるかないかを問わない。) 並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体  
 - エーテルフェノール及びエーテルアルコールフェノール並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体」

・輸入統計番号 (2024年4月1日版): 2909.50-000

「エーテル、エーテルアルコール、エーテルフェノール、エーテルアルコールフェノール、アルコールペルオキシド、エーテルペルオキシド及びケトンペルオキシド (化学的に単一であるかないかを問わない。) 並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体  
 - エーテルフェノール及びエーテルアルコールフェノール並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社 (2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧 (増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物 (総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート (SDS) は JIS Z 7253:2019 に準じて作成しています。